

南アルプス市立白根百田小学校関係者評価書

第2回 学校関係者評価委員会

- 1 実施日 平成23年1月17日（月） 午後4時00分～6時00分
- 2 会場 白根百田小学校校長室
- 3 参加者 学校関係者評価委員
小野 哲夫（委員長職務代理者） 小野 敏明
小野 和明 中沢ひとみ 中澤 真司
学校職員
石川 正人（校長） 大柴 俊彦（教頭）
名取みち子（教務主任） 杉山 明美（生徒指導主任）

4 学校から提案された内容

- ① 学校の活動概要報告（校長）
 - ホームページを電子黒板に投影し、いままでの学校の活動について説明を行う。
- ② 学校の自己評価についての説明
 - 教職員による自己評価（教務主任）
 - 児童アンケート（生徒指導主任）
 - 保護者アンケート（教頭）

5 協議されたおもな内容

- ◎ 教職員による評価、児童アンケート、保護者アンケートについての考察

学校関係者評価

1 教職員による自己評価について

- あいさつについて
 - ・あいさつについては、こちらから声をかけないとだれもあいさつをしてくれない状況にある。自分からあいさつが出来るような取り組みをしていく必要がある。
 - ・あいさつを定着させるには、あいさつの数をこなすことが大切である。地域でのあいさつが十分に成されていない状況も鑑み、地域でのあいさつ運動を広める必要がある。
 - ・阪神大震災にあった地域では、地域全体を巻き込んだ安全対策を考えている。本校においても地域安全ボランティアの充実を望みたい。
- 基礎基本の定着について
 - ・学校での学習に限らず、家庭での学習を充実出来るように、学校からの支援を望みたい。（宿題の工夫、家族みんなで九九の練習など）
 - ・教員が思いきった指導が出来るよう、保護者への対応も含め、教育委員会の支援をお願いしたい。
 - ・家庭内で、親と一緒に共同作業を行う機会を増やしたい。これらも学力の向上の力となる。

2 児童アンケートについて

- アンケートの結果から、児童と先生がとてもうまくいっている状況が見てとれる。(逆に、いわゆるコワイ先生がいない、とも言えるのではないか)
- アンケートの結果から、先生たちが、いじめや子どものトラブルによく対応してくれているのがわかる。また、いわゆる不登校児童がいないことが素晴らしい。
- 昔もいじめはあった。子どもの世界にいじめはある。それが自殺までいってしまうことがあるので恐ろしい。ケンカ体験がないので、人の傷みがわからない傾向がある。また、いじめてる側はグループになることが多いので、いじめているという意識がない場合がある。これらの事も念頭におきながら、引き続きいじめなどへの適切な対応をお願いしたい。
- 子どものトラブルに親が介入しすぎる傾向が見られる。学校での対応と共に、保護者の冷静かつ適切な対応を望む。
- アンケートには特にないが、子どもの話から「給食がとてもおいしい」という声が聞かれた。関係者の尽力に敬意を表したい。

3 保護者アンケートについて

- 学校と保護者が好ましい関係を築いていることが、アンケートからも見てとれる。教育は、学校と保護者とのコミュニケーションがうまくいくことが大切である。
- やはり保護者も基礎学力については心配していることがわかる。
- 保護者の意見にもあったが、全学年がいっしょに行った音楽発表会が素晴らしかった。
- 学校教育に当事者として参画することで、保護者の意識が高まってきていることがアンケートからわかる。

4 全体を通して

- 体面を気にしすぎるのはよくない。先生たちと本音で話ができることが大切である。その点、本校の評価委員会は、和気あいあいと本音で語れることが素晴らしい。
- 先生たちのゆとりのなさ、勤務の過密さ、過酷さが気になる。何とか工夫する中で、趣味に打ち込んだりしながら、教師自身が人間として豊かになってくれることを願う。
- 児童アンケートからも保護者アンケートからも、「子どもが学校に行くことを楽しみにしている」ことがよくわかる。やはり、子どもも、先生も、保護者も、地域の人も、楽しく集える学校が一番である。

5 今後の課題

- 基礎的基本的な学力定着のため、学校のさらなる工夫と保護者との連携・支援
- 自分からあいさつできる児童の育成
- 地域安全ボランティアの充実
- 現在の、先生と子ども、学校と保護者の好ましい関係の維持とよりいっそうの発展